

第3章 八重瀬町の景観特性

地域の景観特性を捉えるためには、その地域の地形や立地条件、歴史や文化、産業や都市化の進展等、様々な視点から特性を抽出する必要がある。

以下に、視点ごとで八重瀬町の景観特性を整理する。

1 自然的景観

(1) 大きなスケール(地形的特徴)で捉える景観

本町の地形は概ね、本町の中央に位置する八重瀬岳(標高 163m)を最高地とする丘陵台地を中心に、南側はゆるやかな斜面を形成している。南端部は太平洋に面した海崖地形により、標高 100m 前後の断崖状の石灰岩丘陵の帯(バンタ)と海浜によって海岸線が形成されている。北側は急斜面をなしたあと、比較的平地が北方へ広がっている。起伏に富んだ独特な地形的特徴の景観を有している。

本町の土地利用は、町土の約半分を農用地が占めており、低地部では、碁盤目状に整備された土地改良区の農用地が町域のあちこちに広がっている。

土壌は、丘陵が発達する南部は石灰岩が風化した島尻マーヅに覆われ、北部は泥岩が風化したジャーガル土壌が覆っている。



【起伏に富んだ独特の地形が織り成すダイナミックな眺望】

(2) 眺望景観

本町は、八重瀬岳や南側の丘陵地をはじめとする丘陵台地の地形のため、低地部分の集落や道路等からは斜面緑地の稜線を望むことができる。

丘陵部の高台からは、集落や碁盤目状の農地等を一望でき、身近な眺望点として住民に親しまれている。

具志頭地域南側の丘陵地は太平洋に面しており、丘陵地に位置する具志頭城址、多々名グスク、ザ・サザンリンクス、ギーザバンタ等のいたるところから雄大な海岸や海原を望むことができる。

また、八重瀬岳や小城馬場広場の展望台等の眺望点では、夜景スポットとしても魅力的な表情を見せてくれる。

主な眺望点

八重瀬岳、具志頭城址、多々名グスク、ザ・サザンリンクス、ギーザバンタ、勢理グスク、新城グスク、金満御嶽、東風平之殿、字上田原の絶壁、雄樋川大橋、小城馬場広場の展望台、西部プラザ公園、東風平運動公園、具志頭運動公園 等



【小城馬場広場の展望台からの眺望】



【具志頭城址からの眺望】

(3) 稜線(山並み)景観

1) 八重瀬岳

東風平地域と具志頭地域の間にまたがる八重瀬岳(標高 163m)は、まちのシンボリックな存在であり、八重瀬グスクをはじめとする遺跡・史跡、自然、桜並木等の豊かな地域資源として、住民の身近な存在として昔から親しまれてきた。また、新町名の由来となっている。

八重瀬岳の中腹には八重瀬公園が整備されており、高台からは、遠く首里城やケラマ諸島、東シナ海を見渡すこともできる良好な眺望点である。



【八重瀬岳】



【八重瀬岳(八重瀬公園)からの眺望】

2) 坂名城から具志頭の南側丘陵地

本町南側の太平洋に面する丘陵地で、メーヌヤマと呼ばれる字坂名城から字具志頭の南側に連なる石灰岩段丘が、海岸線に沿って稜線をなしている。この一帯には、具志頭城址や多々名グスク等の文化財も多く散在している。

多々名グスク周辺の原生林に囲まれた自然遊歩道を散策し、海岸へ抜け出た時、目の当たりにする海への眺望と爽快さは格別である。



【多々名グスク】

(4) 河川景観

1) 雄樋川

雄樋川は、南城市大里の大城ダムを起点に本町東側の南城市との境界線流れ、太平洋に面する港川漁港へと繋がっており、海及び港と一体的な河川空間を形成している。



【雄樋川】

2) 報得川

報得川は、南城市大里を起点に宇東風平から糸満市へと流れている。大雨による氾濫が発生することもあり、過去には水難事故も生じたため、一部に転落防止柵を設置している。

また、報得川は平成17年度に全国の二級河川の水質ワースト1位になったこともあり、糸満市及び南城市とともに清流化に取り組んでいる。報得川沿いには土地改良区の農地が広がっているが、コンクリート三面張りの人工的な河川景観となっている。



【報得川】

3) 長堂川、饒波川

長堂川及び饒波川は、国場川に繋がる支流である。4市3町で構成する国場川水系環境保全推進協議会で、環境保全に取り組んでいる。長堂川及び饒波川の川沿いには農地や住宅地があり、生活排水や畜産排水等の影響による水質の悪化が見られる。

また、両岸はコンクリート護岸が連続し、画一的で人工的な河川景観となっている。



【饒波川】

4) 白水川

白水川は、字具志頭を蛇行するように流れている。白水川にかかる天然岩橋は自然橋と呼ばれ、名勝として知られている。白水川は自然橋とともに、旧具志頭村の村歌に詠まれ地域に親しまれていたが、現在は間知ブロック積の護岸とコンクリート河床により整備され、人工的な景観を形成している。



【白水川】

(5) 海岸・海浜景観

1) ぐしちゃん浜

沖縄戦跡国立公園の具志頭園地(海浜地区)に指定されており、きのこの形状をした特有の巨岩(ブリ)が点在し、独特な海岸景観を形成している。その特徴を活かして、ボルダリング(岩登り)大会やパラグライダー大会が開催されている。



【ぐしちゃん浜のマスブリ】

2) 玻名城の郷ビーチ

ザ・サザンリンクスの敷地内にあるビーチで、アヒラブリと呼ばれるアヒルに似た巨岩がある。干潮時には、イノー(礁池)が露出し、岩場に住むウニや熱帯魚、珊瑚等を歩いて観賞することができる。

また、世界的にも貴重な海藻類「カサノリ」が群生することでも注目されている。



【玻名城の郷ビーチ】

3) ギーザバンタ

具志頭城跡から糸満市の摩文仁の丘に連なる約4kmの断崖絶壁がある。切り立った岩の険しい絶壁が形成されており、太平洋を一望できる良好な眺望点である。

崖の下はリーフが発達しており、大小のイノー(礁池)がある。干潮時には熱帯魚や珊瑚等の海の生き物を観賞することができる。

崖の入口には国営慶座地下ダムの放水路があり、そこから流れ出た水が滝になって太平洋へ白いしぶきを上げて落ちる光景はダイナミックである。



【ギーザバンタ】



【ギーザバンタの滝】

(6) 農地景観

1) サトウキビ畑

肥沃な大地に恵まれた本町は、昔から農業が盛んな地域である。特に、町内のいたるところで見られるサトウキビ畑は、町内の耕種部門での作付面積が最も大きい農作物であり、サトウキビ畑と森(ムイ)や御嶽の森等が形成する農地景観は、「八重瀬町らしい」景観と言える。

1~3月にかけては、ウージ倒し(キビ刈り)の様子を町内のあちこちで見かけ、この時期の風物詩となっている。



【サトウキビ畑】

2) 菊畑

本町の主要な農作物の1つに菊があり、冬場に菊を花咲かせるための栽培方法として、夜間に強い電光をあてる電照栽培が多く営まれている。冬場になると、本町のあちこちでクリスマスのイルミネーションのように夜景を照らす美しい電照菊の光景が見られ、キクミネーションという俗称で親しまれている。



【菊畑】

3) 野菜畑等

本町では、その他にも、ピーマン、紅芋、オクラ、マンゴー、ドラゴンフルーツ、パッションフルーツ等、彩り鮮やかな農作物が数多く生産されており、町内の小学校等では収穫体験も行われている。本町ではこれらの色とりどりの農作物を「カラフルベジタブル」と称し、多様なプロジェクトを展開している。

碁盤目状の農用地では、多種多様な野菜や果実が露地やビニールハウスで栽培されており、豊かな田園風景を形成している。



【碁盤目状の農用地】



【カラフルベジタブルのイベント広告】

2 集落・市街地景観

(1) 集落景観

字東風平、字具志頭等の集落においては、北側に森（ムイ）を配し、碁盤目状に形成された道路や、馬場跡、南入りの住宅配置、フクギ屋敷林や栗石の石垣、瓦屋根住宅が残っており、伝統的な集落景観を見ることができる。

また、集落には世名城のガジュマルや当銘のガジュマルといった巨木・古木が残っており、地域のシンボリックな存在となっている。



【石垣とフクギ屋敷林に囲まれた赤瓦住宅（字東風平）】



【上江門家（字安里）】



【緑に囲まれた赤瓦住宅（字世名城）】



【栗石の石垣（字具志頭）】



【世名城のガジュマル】



【当銘のガジュマル】

(2) 市街地景観

本町の北部地域には、那覇広域都市計画区域の伊覇地区地区計画及び屋宜原地区地区計画があり、国道507号の拡幅や伊覇・屋宜原地区の土地区画整理事業等、基幹道路や住宅地・商業地の整備が行われ、新たな中心市街地として都市的な開発が進められている。

区画整理された住宅地では、近代的な住宅が建ち始めている。

国道507号には商業施設が並び、活気を形成しているが、沿道には看板等の屋外広告物が乱雑に存在し、また、多くの電柱が立ち並び、電線が張り巡らされている。



【都市化が進む伊覇・屋宜原地区】



【近代的な共同住宅や戸建住宅が建つ区画整理区域】

(3) 歴史・文化的景観

1) グスク

現在、本町にあるグスク時代の遺跡は43遺跡で、そのほとんどが琉球石灰岩丘陵で確認されている。遺跡は主に14～15世紀頃のもものが中心で、代表的なものとしては、八重瀬グスク、多々名グスク、具志頭グスク、勢理グスク、新城グスク、テミグラグスク等があり、グスクが存在する小高い丘が各地域の緑の森(ムイ)としてランドマークやシンボルとなっている。

中でも、八重瀬グスクは、汪英紫によって築城され「しものよのぬし」と称して隆盛を極めたと伝えられている。また、多々名グスクについては、13種ほどのおもろが残っており、中でも『おもろさうし』第19は「ちゑねん、さしき、はなくすくおもろ御さうし」と題し多々名グスクや城主の「ちゃら(按司の異称)」を讃えるおもろが見られ、その頃の城主は具志頭周辺を領するほどの勢力があったと伝えられている。



【勢理グスク】



【新城グスク】

2) 村獅子(シーサー)

富盛の石彫大獅子に代表されるように、本町には多くの村獅子が残っている。馬場跡や公民館等の近く、集落の外れの小丘等に建っており、火除け(魔除け)の意味合いが強い。その中には、青年繁栄の守り神として特異な獅子である小城のニーサー石もある。

各地域に残り地域を見守り続けている獅子(シーサー)は、本町の独特な景観要素としてその保全が望まれる。



【富盛の石彫大獅子】



【小城のニーサー石】



【東風平の子又方の獅子】



【東風平の卯又方の獅子】



【東風平の酉又方の獅子】



【東風平の午又方の獅子】



【志多伯の酉又端の石獅子】



【志多伯の午又端の石獅子】



【安里の石獅子】



【新城の石獅子】

3) 各集落に点在する拝所

各集落内やその周辺においては、殿、御嶽、井戸等の拝所が多く存在している。それらの場所では古くから地域の年中行事が行われ、地域の人々の精神的な拠り所となり、信仰文化の中心となっている。

これらは、昔の集落の形態や人々の生活の様子等の歴史を感じさせる重要な景観要素ともなっている。



【金満御嶽】



【屋富祖井】

4) 文化的景観

本町は「エイサー」「獅子舞」「棒術」「臼太鼓」「ハーレー」等の伝統芸能が盛んな地域である。旧盆や旧暦8月15日には、各地域で多彩な民俗芸能が催される。豊年満作や無病息災を祈願するものが多く、今日まで受け継がれている。

各行事で多く集まる人々の賑わいや、三線と太鼓の音色、色鮮やかな衣装等が織り成す文化的景観は、一年を通して限られた時間ではあるが、保存すべき重要な景観である。



【安里のエイサー】



【東風平の棒術】



【富盛の女行列】

(4) 道路景観

1) 国道 507 号

主要幹線道路である国道 507 号は、本町の南北を縦貫する道路の主軸となっている。

北部側では 2 車線が整備され、中央分離帯にはアカタコノキやヤシ等の南国風の街路樹が配置されている。伊覇・屋宜原地区では商業施設が建ち並び、市街地としての沿道景観を形成しているが、電柱・電線や屋外広告物等も目立っている。

一方、字富盛付近から南下すると、サトウキビ畑に囲まれた直線道路が続き、都市計画区域外となっている具志頭地域のどかな田園風景を形成している。

2) 国道 331 号

主要幹線道路である国道 331 号は、本町の南側に位置し東西軸となっている。沿道にはクロキ等の街路樹が植樹されており、特に、歴史民俗資料館前には、具志頭間切番所が設置した時に植栽されたと言われるフクギ並木が特徴ある道路景観を形成している。

3) 県道 52 号線

県道 52 号線は、字新城から字富盛、字世名城、字高良を抜けて糸満市へ向かう東西軸の幹線道路である。

特に、八重瀬岳から見下ろす字世名城付近では、沿道の両側がソウシジュ並木となっており、背後の農地や森（ムイ）とあいまって良好な道路景観を形成している。



【国道 507 号 (北部側)】



【国道 507 号 (具志頭地域)】



【国道 331 号】



【県道 52 号線】

(5) 漁港景観

本町の漁業の中枢をなす町内唯一の港川漁港は、本島南部では糸満について歴史のある港である。

漁業組合が中心となってパヤオやソデイカ漁を中心に、小型船による漁船漁業が営まれている。新鮮な魚介類が水揚げされ、競り売りではうみんちゅ達の活気ある声が飛び交っている。

漁港内に無造作に積み重ねられた石灰岩の石ころの山が、伝統漁法のイシマチャーとあいまって独特の漁港景観を形成している。



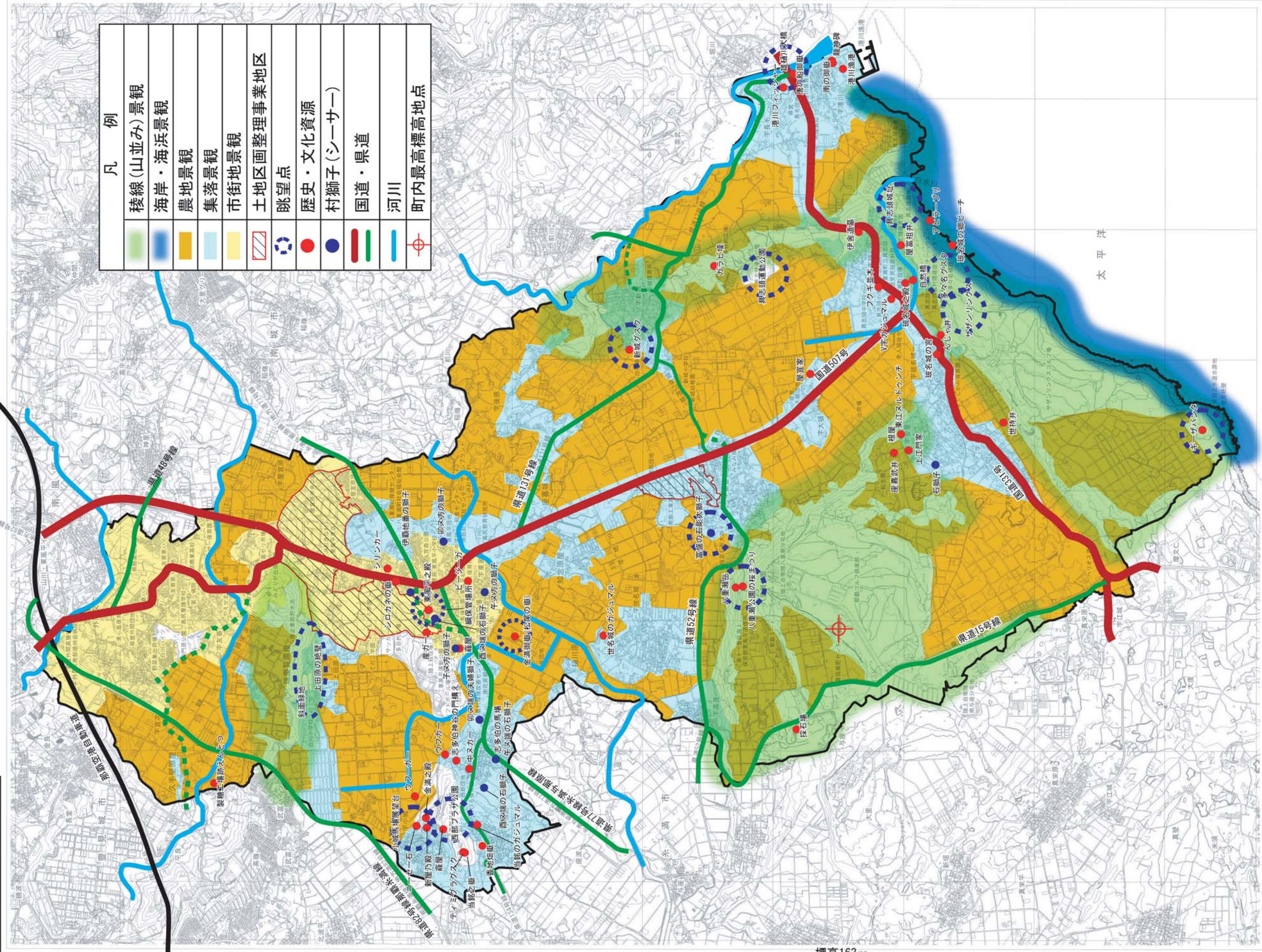
【港川漁港】



【漁村としての港川集落の様子】

イシマチャーとは、底物（マチ類等）釣り漁法で、石まき式漁法ともいう。この漁法の大きな特徴は、従来の固定された錘のかわりに細長い1~2kgの石を使用して、使い捨てしたことである。釣針を海底まで下ろせばこの石錘が外れるような結索法に独自の工夫が凝らされている。

3 八重瀬町景観特性図



凡 例	
	稜線(山並み)景観
	海岸・海浜景観
	農地景観
	集落景観
	市街地景観
	土地区画整理事業地区
	眺望点
	歴史・文化資源
	村獅子(シーサー)
	国道・県道
	河川
	町内最高標高地点

